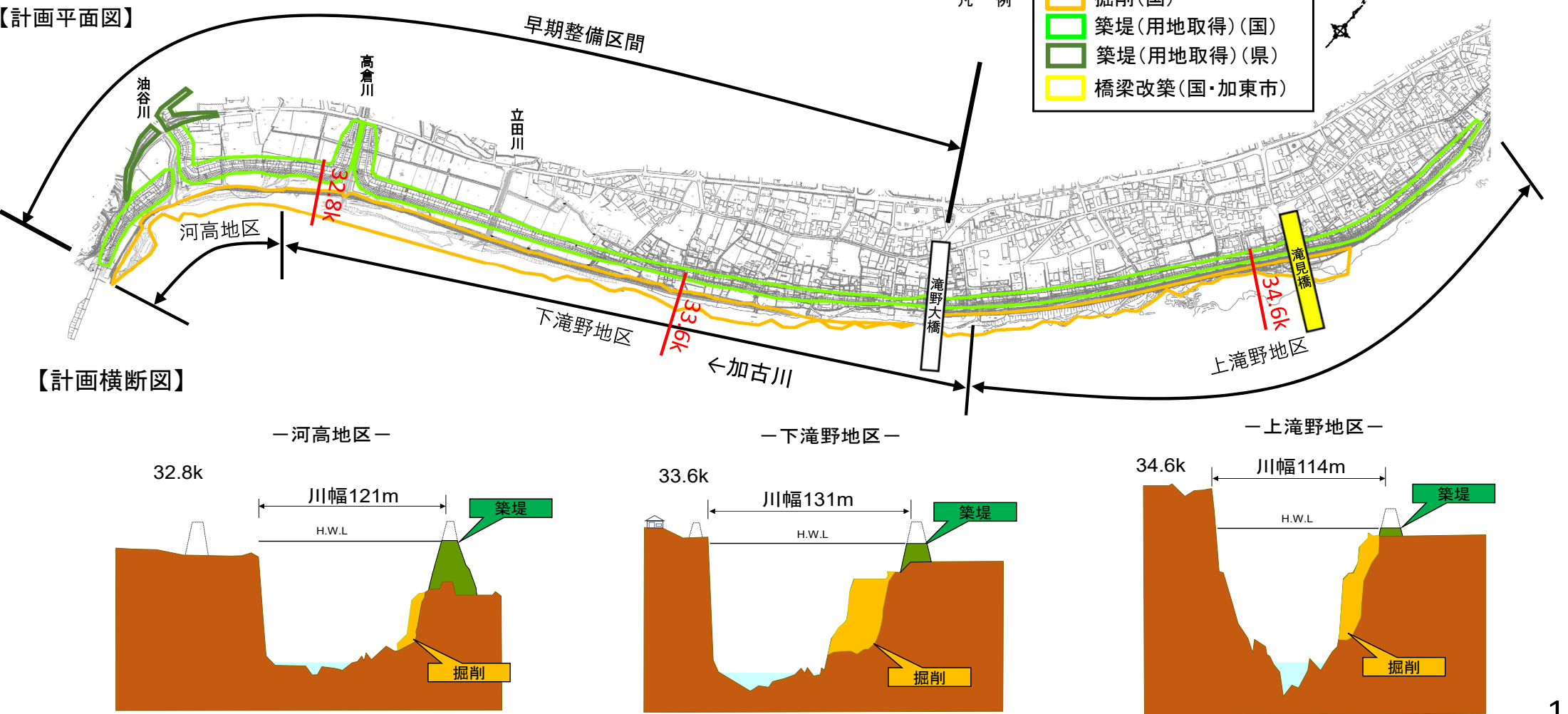


加古川中流部の緊急的な 治水対策の事業進捗

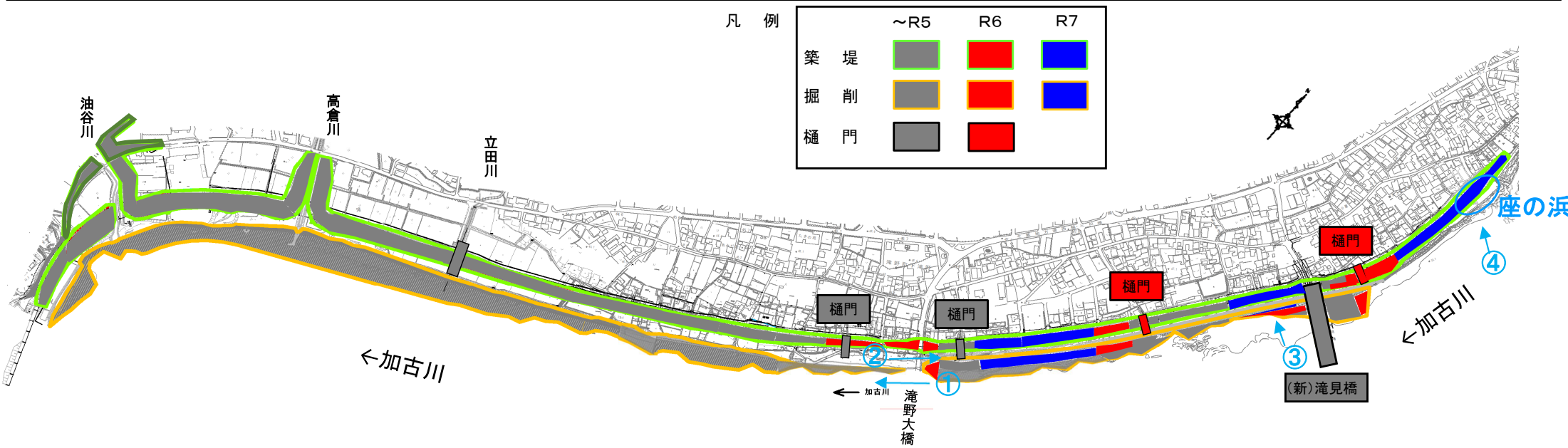
○滝野地区（河高・下滝野・上滝野）において、平成16年洪水（台風23号）と同規模の洪水に対する浸水被害軽減を図るため、平成29年度から概ね10年間で、河道掘削、築堤、滝見橋架替を行う。中でも、近年の浸水頻度が高い河高・下滝野地区については、早期整備区間と位置付けている。

○「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」の活用により、当初予定より1年前倒しの令和7年度完成を目標に上滝野地区の事業を推進していく。

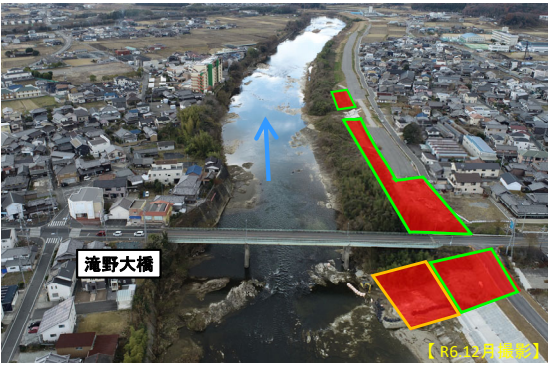


※今回の整備においては、加古川下流域への負担を考慮し、築堤の高さは計画高水位（HWL）までの暫定整備とする。

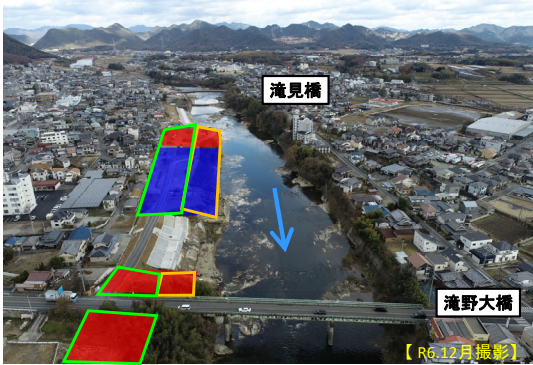
- 築堤(暫定)は、全体約2.7kmのうち、約1.7km完成しており、令和6年度内には約1.9km完成予定
- 令和7年度末までの完成を目指し、4件工事実施中、2件発注手続き中。
- 用地未取得箇所4箇所(うち、2箇所については令和6年度内に引渡し予定)



① 滝野大橋より下流を望む



② 滝野大橋より上流を望む



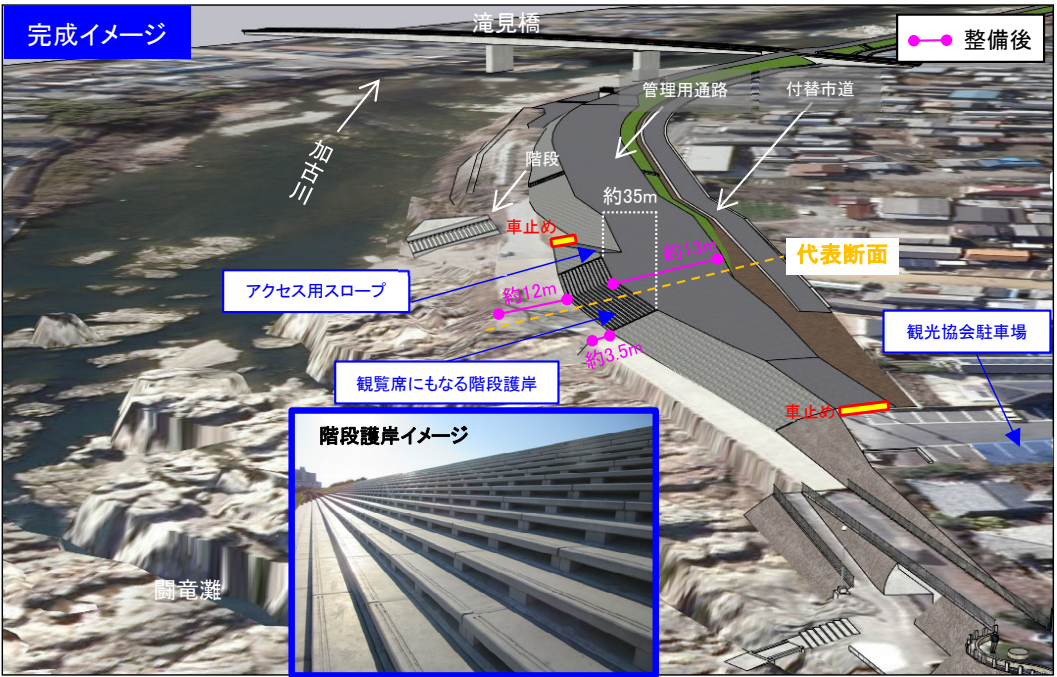
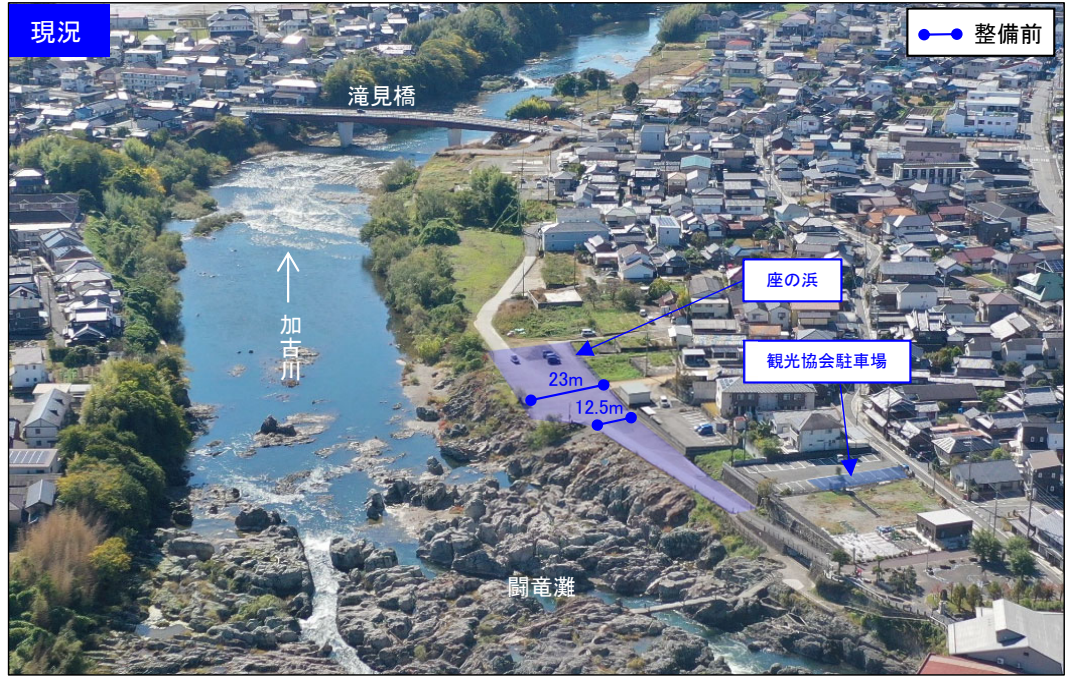
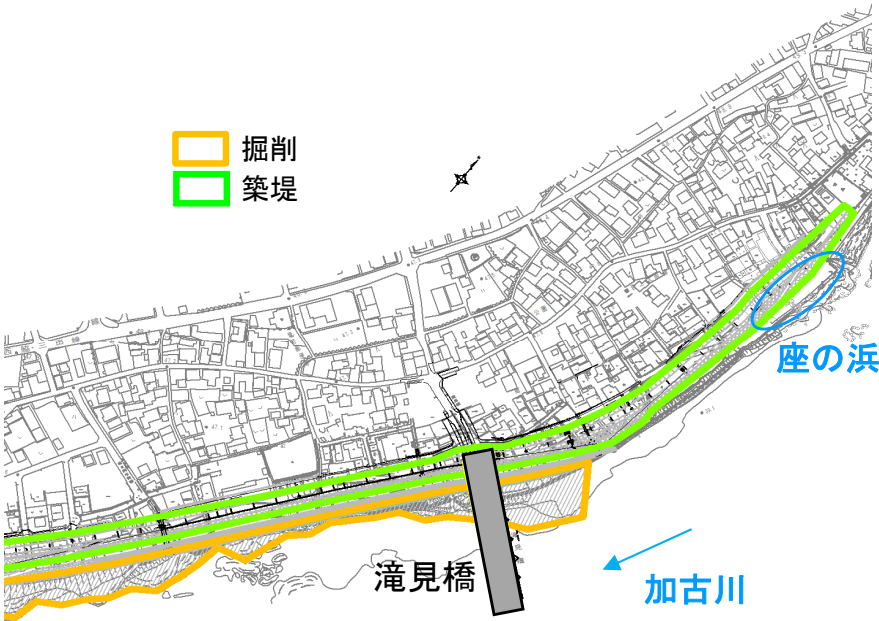
③ 滝見橋右岸から左岸を望む



④ 座の浜を望む



- 上滝野地区 座の浜での工事（築堤）に伴い、護岸の一部を階段護岸に変更することにより、座ることが出来るようになり、加古川・闘竜灘を眺めることが出来る。また、毎年5月3日に開催されている鮎まつりで行われている花火大会の時には観覧席としても使用できる。
- 水辺に近づくことのできる階段を整備することで親水空間としての機能も。
- 座の浜周辺の工事着手は、鮎まつり開催（5月3日）後の予定（工事発注手続き中）

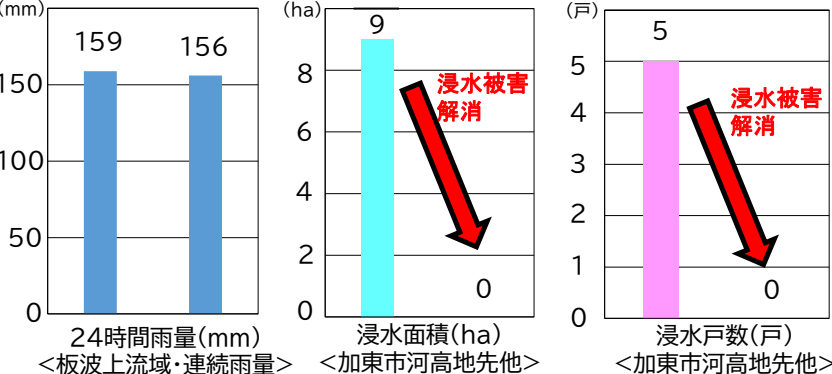


- 加古川中流部(滝野地区)では、度重なる浸水被害への対応として、平成29年に緊急治水対策特定区間に設定し、河道掘削及び築堤(暫定堤、以下同じ)を実施中。
- 令和6年5月の洪水は、無堤防区間で浸水面積約9ha、浸水戸数5戸の浸水被害が発生した平成23年台風第12号と同規模降雨であったが、河道掘削により加東市河高地先で河川水位を約40cm低減させ、築堤により当地区の浸水を解消させる効果があったものと推定。
- 今後も「防災・減災、国土強靱化5カ年加速化対策」の予算を活用し、令和7年度中の完成を目指し事業を推進。

■位置図



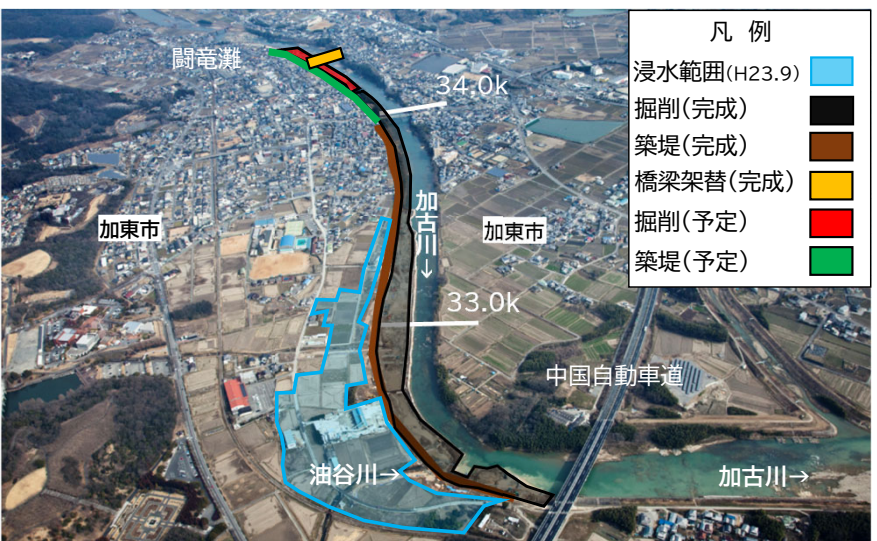
■令和6年5月低気圧と前線による大雨とその被害



■加古川中流部緊急治水対策(H29～実施中)

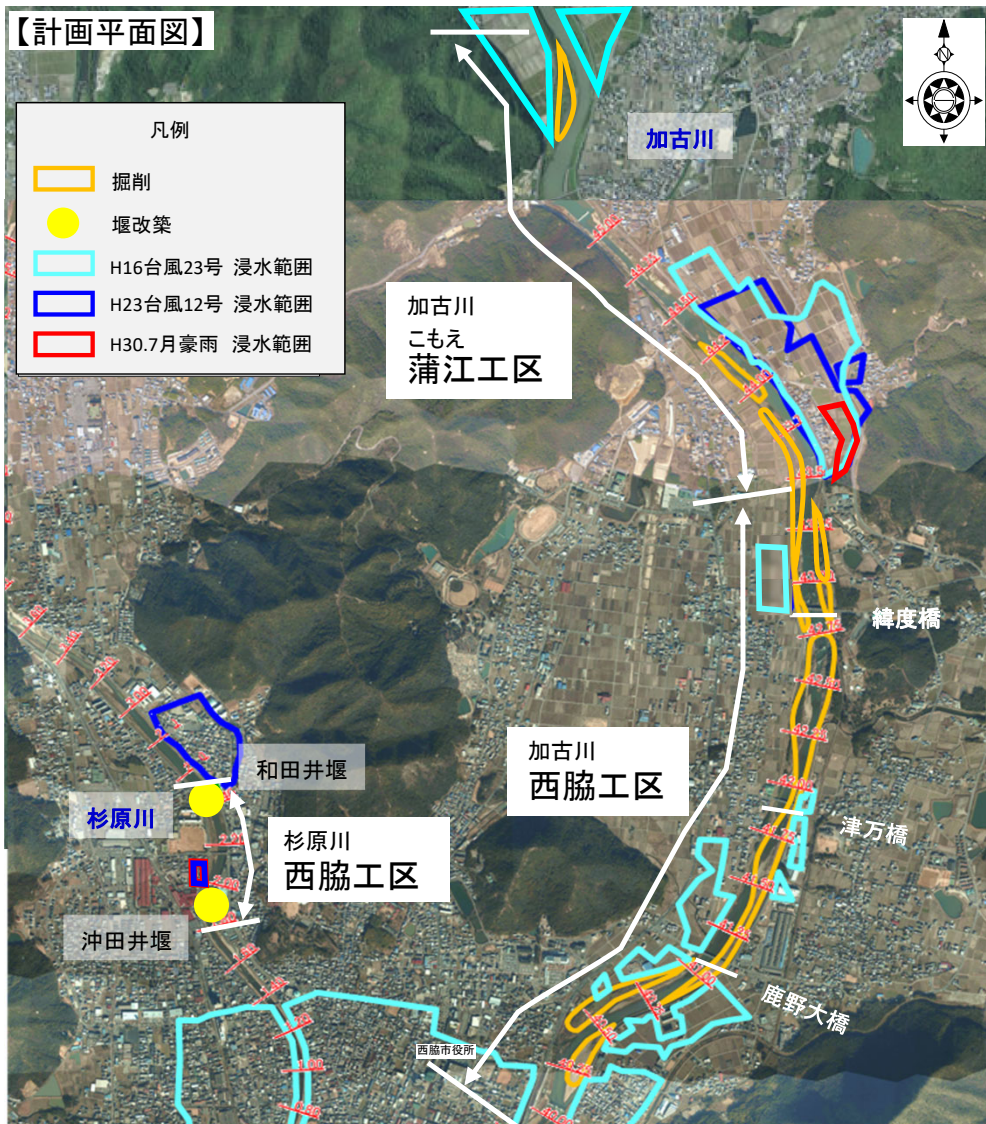


■兵庫県加東市河高地先(加古川33.0k付近)



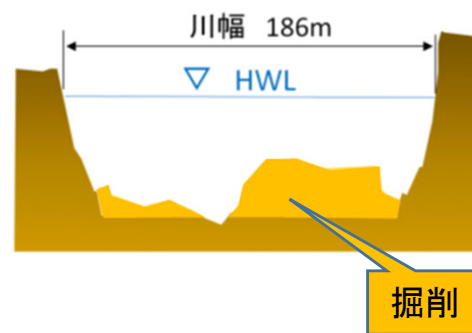
※事業実施前の平成29年河道と現況河道(令和5年度末)の河道を比較し、今次洪水が発生した際の水位を試算したもの
※本資料の数値は、速報値であるため、今後の調査で変わる可能性がある

- 西脇市域では、平成16年台風23号と同規模の洪水による浸水被害軽減を図るため、平成29年度から概ね15年間で、**加古川の西脇工区・蒲江工区で河道掘削を、杉原川の西脇工区で河道掘削及び沖田井堰・和田井堰の改築を行う。**
- 引き続き「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」予算等を活用し、早期に地域の治水安全度向上対策を推進する。

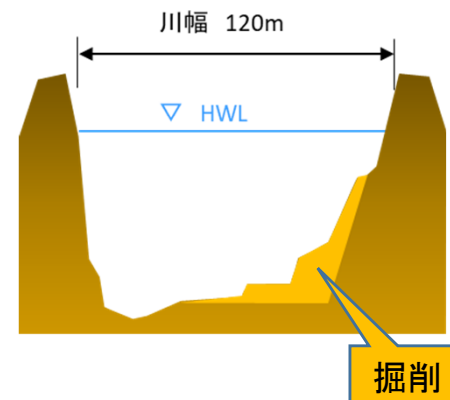


【計画横断図】

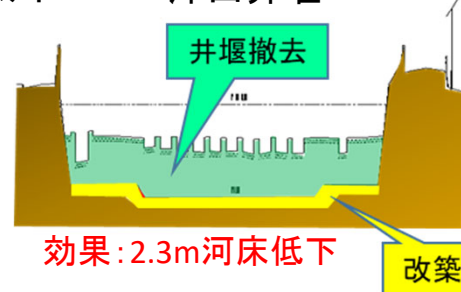
加古川 ー西脇工区ー



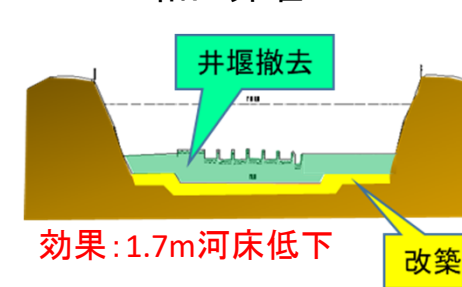
こもえ
ー蒲江工区ー



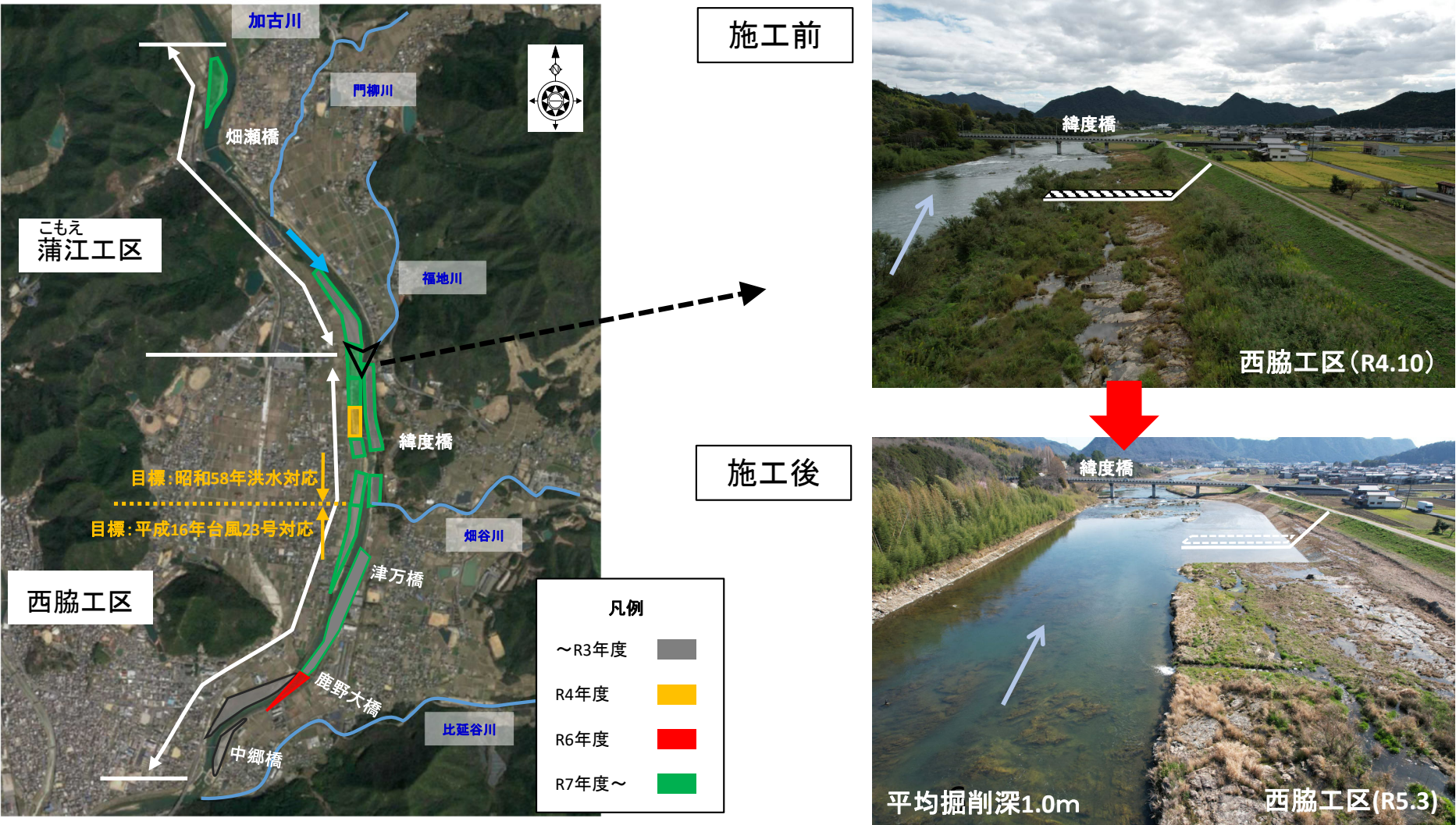
杉原川 ー沖田井堰ー

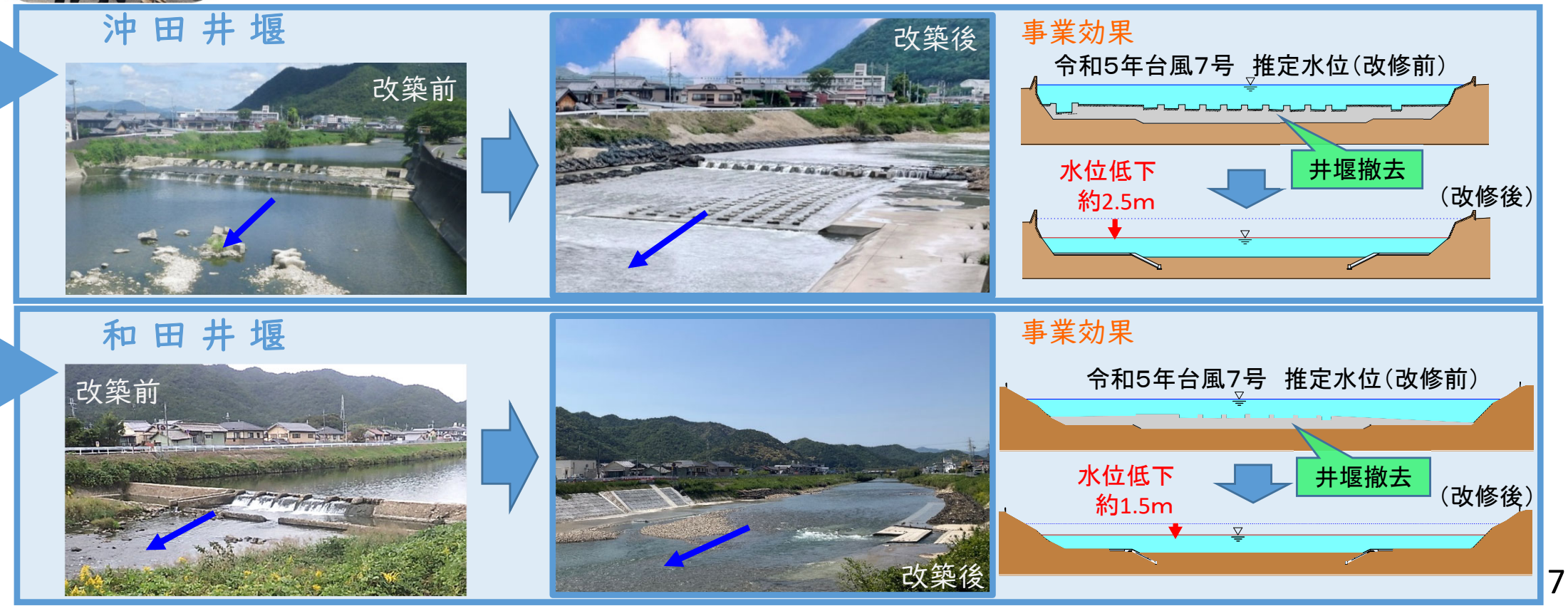


ー和田井堰ー



- 西脇工区
- ・ 早期に事業効果発現のため、畑谷川合流点下流において昭和58年洪水対応（2段階整備の1段階目）の掘削を令和2年度に完了させた。
 - ・ 平成16年台風23号対応の掘削（2段階整備の2段階目）は、令和15年度完了予定。
 - ・ 平成29年度から令和5年度までに約21.5万m3掘削した。（進捗率約50%）
 - ・ 令和6年度は、鹿野大橋下流左岸の河道掘削（約0.9万m3）を進めている。
- 蒲江工区
- ・ 令和6年度より事業着手。用地調査を進めている。





【県】

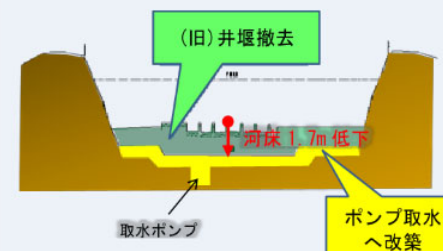
-
- 位置図
- 杉原川
(西脇市)

 :R6実施中
 :R7以降
 :改修済

護岸工事： 
河道掘削：

— 和田井堰 —

改築前に比べて、河川断面が約40%拡幅



H25.9.16 浸水範圍

時間	H25.9出水	R6.5出水
1時間	16	17
3時間	43	47
6時間	74	81

※加美観測所【兵庫県】での観測値

出水	床下	床上	合計
H25. 9出水	48戸	6戸	54戸
R6. 5出水	0戸	0戸	0戸

5カ年加速化対策予算等
により、浸水被害を解消

- 人家が密集する地区や、放置すれば更なる土砂堆積が見込まれる河川合流点付近等で、**堆積土砂撤去**を実施。
- 決壊すれば甚大な被害につながる築堤区間において堤防の管理水準を向上させるため、**法定点検前に堤防の草刈り**を実施。

主な箇所【河川堆積土砂撤去】（一）加古川水系杉原川（西脇市西脇付近）

位置図



施工前



【R6.4月撮影】

施工後



【R6.11月撮影】

主な箇所【河川堤防の点検前除草】（一）加古川水系千鳥川（加東市窪田付近）

位置図



施工前



【R6.10月撮影】

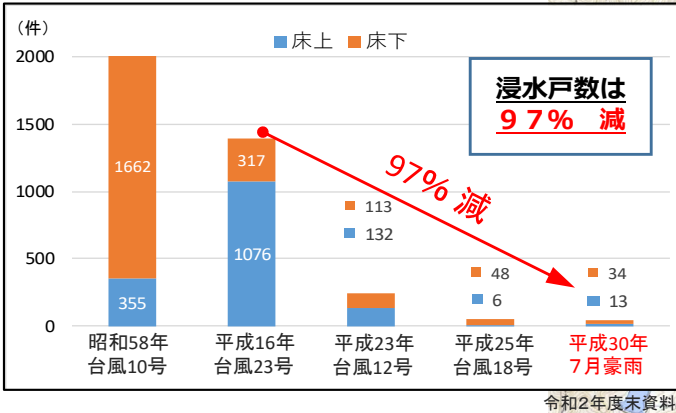
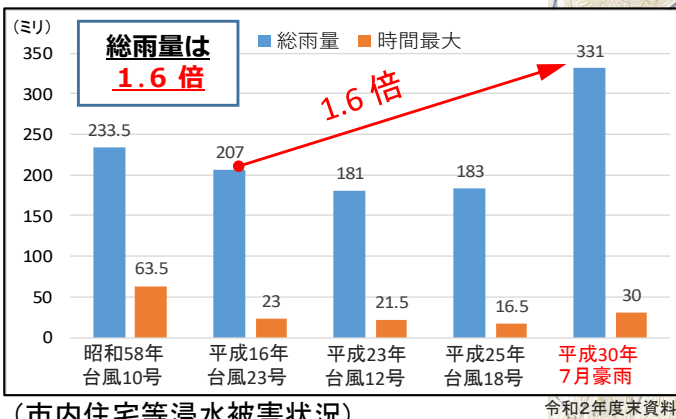
施工後



【R6.11月撮影】

平成30年7月豪雨の浸水状況

平成30年7月豪雨は、平成16年台風23号時の約1.6倍の総雨量であったにもかかわらず、浸水家屋数は、約97%減少するなど河川改修や総合的な治水対策への取組効果が発揮された(総雨量と時間最大雨量)



地元と調整会を実施 (情報収集)

step1

① 黒田庄地区(加古川東部)

② 黒田庄地区(加古川西部)

<<平成30年度から町単位で実施>>



地域総合治水対策
(ながす・ためる・そなえる)

氾濫解析を行い計画を策定

step2

地域における雨水排水路整備の実施計画 と タイムラインを作成

下水道事業で早期対策工事を実施

step3

令和4年度より流域単位での「水の学習会」を実施

step4

黒田庄西部井堰協議会
(船町、田高、石原、西澤、大伏)



令和6年5月18日

流域合同で課題を共有

黒田庄東部三ヶ村合同
(喜多、前坂、黒田)



令和6年6月26日

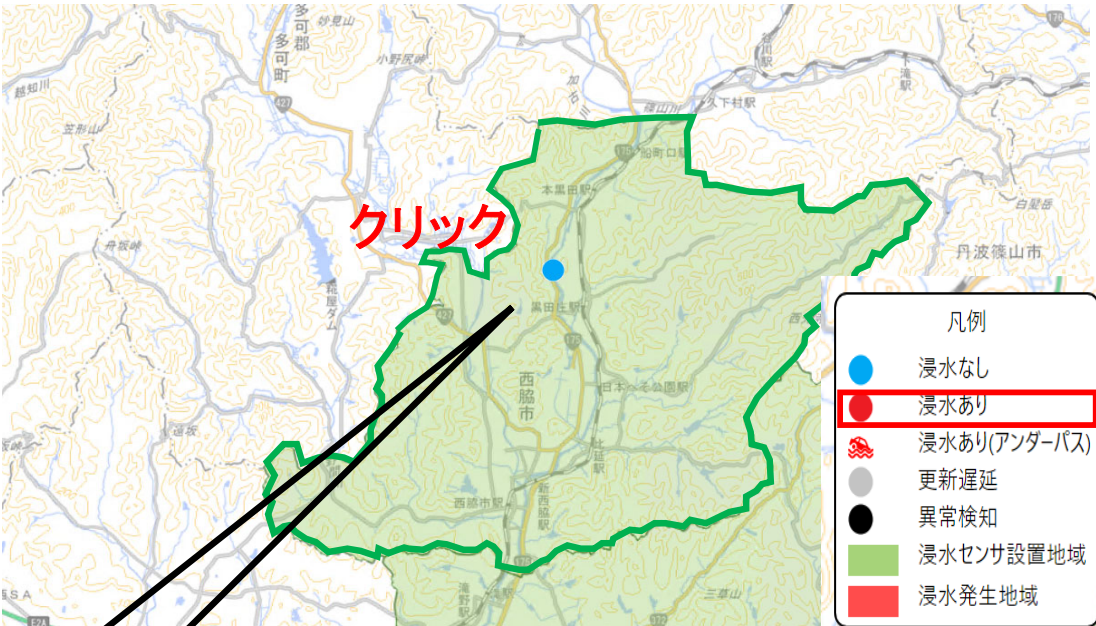
現在まで、延べ34回を実施

住民の安全・安心の向上に繋がる新技術・DXを活用した治水への取り組み①

令和4年度 三ヶ村(喜多前坂黒田)タイムライン(案)

箇所番号	施設名所	対策施設	2～3日前	前日	当日	備考 (確認事項)
①	喜多前坂黒田井堰	取水ゲート	動作確認 目視点検	ゲート閉		ゴミ等が挟まっていないか 河川からの流入はないか
②	黒田北樋門 黒田中樋門 黒田南樋門	鋼製ゲート W2.0×H2.0	動作確認 目視点検		ゲート開 状況確認 ゲート開	水位標は確認出来るか 変形や破損等の確認
③	南谷川放流ゲート(山鼻)	フラップゲート φ900	動作確認 目視点検			ゴミ等が挟まっていないか 変形や破損等の確認
④	"	鋼製ゲート W1.0×H0.7	動作確認 目視点検	ゲート閉		ゴミ等が挟まっていないか 止水は出来ているか
⑤	前坂樋門	鋼製ゲート W3.5×H3.5	動作確認 目視点検		ゲート開 状況確認 ゲート開	水位標は確認出来るか 変形や破損等の確認
⑥	喜多北樋門	鋼製ゲート W2.5×H2.5	動作確認 目視点検		ゲート開 状況確認 ゲート開	水位標は確認出来るか 変形や破損等の確認
その他	地元消防団活動				消防車待機	水位記録 操作記録・写真

国土交通省 浸水センサ表示システム画面



ワンコイン浸水センサの導入(喜多)



詳細情報表示(位置情報、設置状況写真)

センサID: 2821312001
センサ状態: 浸水なし
センサ管理者名: 兵庫県西脇市
観測日時: 2024/05/15 10:32:38
浸水開始日時: -
設置場所: 西脇市
設置高さ: -0.3m
平均標高: 67.46m
(国土地理院DEMデータより)
緯度: 35.032173
経度: 134.983193

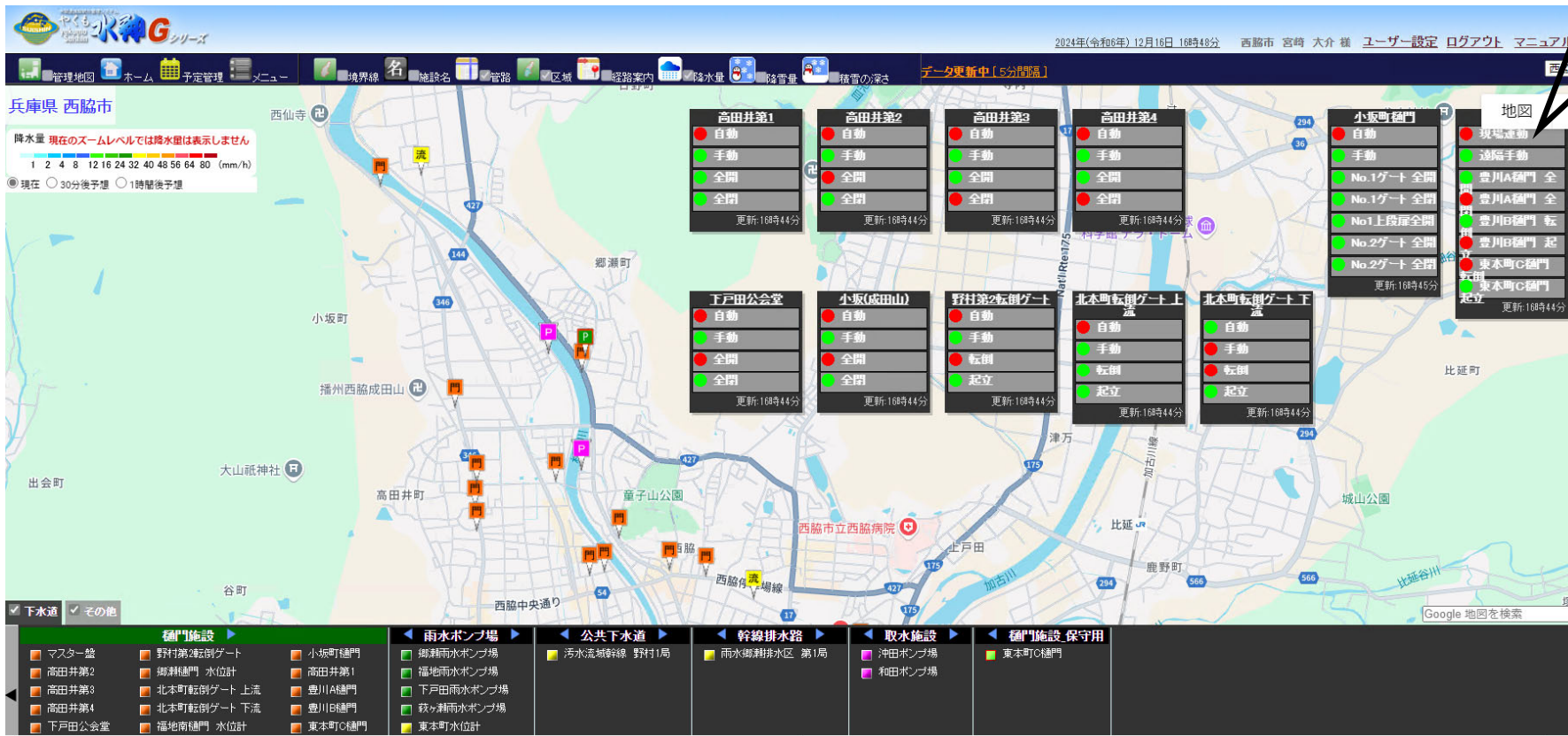
近景画像

遠景画像

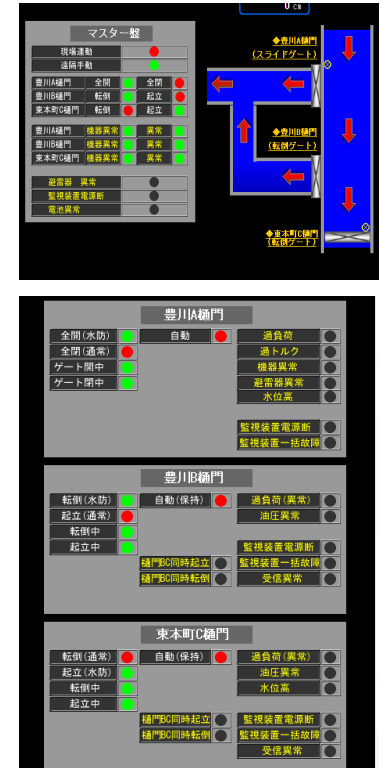
事前防災活動に活用

住民の安全・安心の向上に繋がる新技術・DXを活用した治水への取り組み②

市街地の主要なゲートをPC・スマートフォン画面上で一括管理



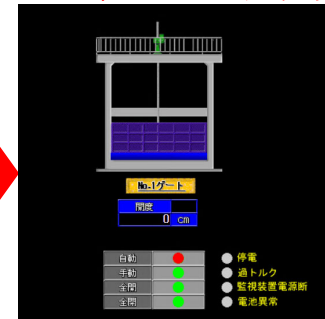
詳細情報表示



PC・スマートフォンからの遠隔操作化(頻発化・激甚化するゲリラ豪雨対策)



出水時現場操作



PC等から遠隔開操作

以下の遠隔操作を行います。
遠隔操作を行いたい場合は、チェックを入れて「遠隔操作」ボタンをクリックして下さい。

高田井第1

☒	開操作
☐	閉操作
☐	停止操作

凡例 ■ 選択中 ■ 遠隔操作実行中

遠隔操作実行



「洪水時の一人ひとりの防災行動計画」となるマイ・タイムライン作成講習会を開催しました

日 時: 令和7年1月26日(日)
場 所: 西脇市茜が丘複合施設ミライエ
多目的ホール
参加者: 一般市民(42名)
(共催) 兵庫県 北播磨県民局 加東土木事務所
西脇市
(後援) 加古川中流部河川整備推進協議会

当日の様子



←作成後、お持ち帰りました



○気象キャスターであり、
流域治水アンバサダーの
澤 麻美さんとマイ・タイムライン
と一緒に作成！
○皆さん、真剣に取り組んで
おられました。

講習会の後半では、国と市から流域治水の
取り組みについて紹介いただきました。

「防災マップ西脇」と、マイ・タイムライン検討
ツール「逃げキッド」を使用し、水害に備えて
自分自身のマイ・タイムラインを作成。

防災時の、

次なにをするか

今なにをすべきか を考えました

気象キャスターさんと
一緒に考えました！



姫路河川国道事務所調査課長様
『水害リスクマップと流域治水』



西脇市建設水道部工務課長
『市の流域治水の取り組み』

- 避難所体験訓練
- 総合（合同）防災訓練



- ・災害時に避難所開設を迅速に行うための訓練と、発災時の避難における市民の意識啓発を目的として、平成29年度から市の指定避難所である滝野総合公園体育館スカイピアにおいて避難所体験訓練を開催し、「ダンボールベッド」の組み立て、防災士の指導による非常持ち出し品の確認等を行っています。
- ・今年度は令和7年1月25日に実施した学校・自主防災組織合同防災訓練では、国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所が保有している「土のう造成機」を使って土のうを作成して、消防団による水防工法訓練（月の輪工）を行いました。また、バケツリレーの消火訓練、炊き出し訓練、災害体験VRや避難所運営ゲーム「HUG」などを行いました。



取組を実施した効果、成果

- ・災害発生時に迅速かつ的確な救助活動や避難所開設が展開できるよう、市民及び関係機関や行政が一体となり訓練を実施することで、市民の防災意識の高揚と知識の向上、市職員の災害対応能力の向上、防災関係機関相互の連携強化による災害対応能力の向上が図れた。

- 要配慮者利用施設における避難確保計画の作成等
- 無人航空機（ドローン）の導入



- ・令和元年度、国土交通省姫路河川国道事務所と連携し、市内の高齢者施設1施設をモデルとして避難確保計画の作成支援を行いました。
- ・令和3年度に「水防法」及び「土砂災害防止法」の一部が改正され、避難訓練等を実施した場合には、施設管理者から市長に対して訓練結果を報告することが義務化されました。施設管理者は訓練実施後、「訓練実施結果報告書」を作成し提出することになりました。
- ・要配慮者利用施設における避難確保計画は、令和6年12月末時点で対象施設35施設のうち、35施設（100%）が作成済み。また、訓練実施結果報告書は、そのうちの5施設（14%）が提出済みである。
- ・災害、火災及び行方不明者の搜索活動など、災害現場等の情報を幅広く効率的に収集するため、無人航空機（ドローン）を導入し、操縦者育成講習会を開催しました。



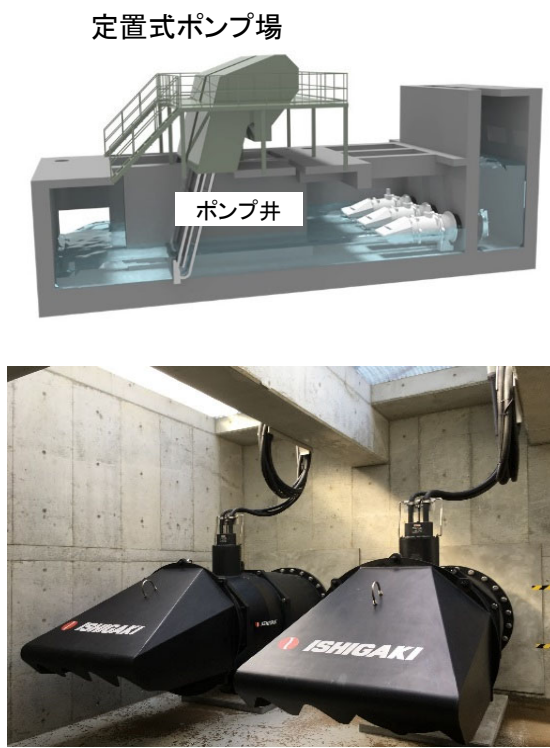
- ・避難計画を作成する中で、施設周辺の災害リスク、避難のための準備、行動するタイミングなど、施設の課題等を認識し、確認することによって、防災意識を高めることにつながりました。
- ・災害時に対応できる体制を整えているほか、市の通常業務においてドローンによる空撮を行うなど、平常時にも活用しています。

加東市河高安取地区は、樋門付近の地盤高が加古川の計画高水位より低く、本川増水時には自然流下による排水が困難となり、たびたび内水による浸水被害を受けてきました。
本市では、この被害を防ぐため、雨水排水ポンプ場の整備工事に着手し、平成30年度に完成しました。
（※令和7年1月末現在、本施設の稼働実績はありません。）

【過去の被災状況】



【整備後の雨水ポンプ場】



管理棟 鉄筋コンクリート造1階 床面積184.96㎡
ポンプ形式 全速全水位型横軸水中ポンプ
口径:900mm 吐出量:192m3/分（96m3/分・台×2台）
台数:2台【将来計画 3台】

令和5年度

加東市においてマイタイムラインを作成

日時：令和6年3月10日（日）

場所：加東市滝野図書館 3階会議場

参加者：一般市民（17名）

※気象キャスターを迎え、気象や防災情報を踏まえながら、マイ・タイムラインを作成。



マイ・タイムライン検討ツール
「逃げキッド」を配布し作成

【マイ・タイムラインとは】

マイ・タイムラインとは住民一人ひとりのタイムライン（防災行動計画）であり、台風等の接近による大雨によって河川の水位が上昇する時に、自分自身がとる標準的な防災行動を時系列的に整理し、自ら考え命を守る避難行動のための一助とするものです。

その検討過程では、市区町村が作成・公表した洪水ハザードマップを用いて、自らの様々な洪水リスクを知り、どのような避難行動が必要か、また、どういうタイミングで避難することが良いのかを自ら考え、さらには、家族と一緒に日常的に考えるものです。



参加者の様子

